

COOP-JOSO News Letter

常総生活協同組合

発行/副理事長 大石

tel:050-5511-3926

2011年度活動テーマ

発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。人々の協同で被災地復興と大地再生。

発酵と復興

粉ミルクも放射能汚染



12/6、粉ミルクの放射能汚染が明らかになりました。

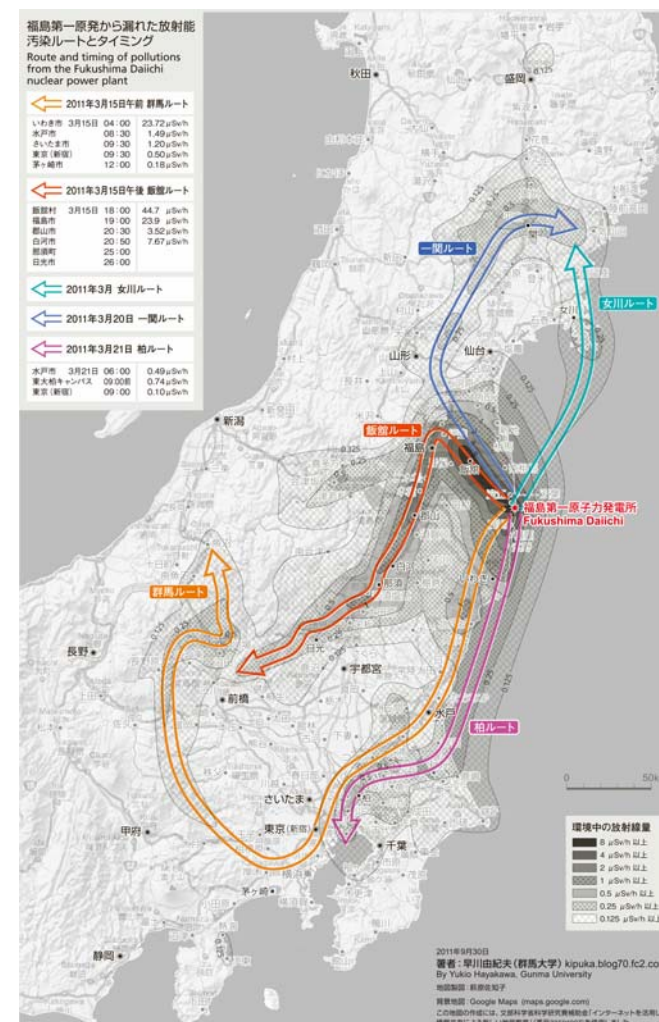
春日部市の明治埼玉工場で3/14～20に原料(主にアメリカ・オセアニア地域からの輸入脱脂粉乳)の加熱空気による乾燥過程で、その空気が放射能汚染されていたのが原因のようです。セシウムが21.5～30.8ベクレル/kgの検出。

「母乳検査・母子支援ネット」(常総生協も呼びかけ人となっています)で全国のNPOや団体と協力して小児の尿の検査をすすめていたところ、「母乳ではないからきっと大丈夫だね」と言っていた赤ちゃんの尿から高いレベルのセシウムが検出されたことから、粉ミルクの調査になったとの連絡が入っています。

母乳ネットでは、1ヶ月前より、母乳検査から「赤ちゃんの尿」に検査対象を移して実施していた最中で、茨城では常総生協が担当して2歳未満の子を持つ組合員さん10人に協力をお願いしていたところ。

■「埼玉県の汚染」は、左図の群馬大学早川由起夫教授作成の放射能汚染ルートによれば、「3/15」の水戸→石岡→つくば→守谷→流山・三郷→東京→群馬へ抜ける「群馬ルート」の途中で空気汚染されているようです。

太平洋沿岸を下って内陸に入った霞ヶ浦→阿見→牛久→取手→柏→松戸の放射能汚染は「柏ルート」と呼ばれ、通過は「3/21」です。



【茨城県坂東市】清水農園

1)決して忘れない、忘れることはできない

大地震も生まれて初めての体験。原発の爆発には「終わった」と思いました。

放射能汚染で、これまでの価値観、好きな物が全て否定されました。人参ジュース、野菜スープ、豆類、芋類。皮や種子も食べることに一人喜びを感じていた。そして麦ワラ、稲ワラの心地よさ。大きな木の下。ツリーハウスを夢見ていたのに。

「内部被曝を避けるためには同じ物を食べ続けないうい・・・」自給自足も否定されてしまった。大事件で大事件を忘れ続けてきたが、この放射能は、ど真ん中で生きていく者として、決して忘れることはない。できないことです。

2)これからのこと・・・生命をつなぐということ

大豆を播く。種子として残し続ける。みそ用の大豆を半分以上枝豆で出しました。端境期に貴重な出荷物です。皆さん”ウマイ!!”と言ってくれます。

地場の名もなき大豆です。他の種子は病害虫でダメです。たとえ放射能汚染されても、播いて収穫し、種子を取らないと途絶えてしまいます。



大豆は2年目には芽が出ませ

清水さんの大豆の発芽

ん。だからどんなことがあっても毎年播き続けたいといけません。蒔けるのは7月の1週目だけです。



苗を植え替える美智子さん

3)組合員へのメッセージ

・・・組合員さんが住民の先頭で動いている

私が自失茫然としている時に、生協は東北に救援トラックを出したことに目が覚めました。生産者としてよりも、組合員の一人として、その輪の中にいられて幸運でした。

常総生協の地域がホットスポットになったことも宿命を感じます。各地域で組合員さんが住民の先頭で動いている。子育て、家事、仕事、介護をやりながらです。

この問題は恐らく一生続くことですから、折れるわけにはいきません。疲れたら休む。その時は、今やるにやれない人たちができる時がくるでしょう。

種播きと同じだと感じています。

清水農園 清水 美智子



清水さんと畑の交流会(2010年)

【岩手県】(株)岩泉産業開発

1)ふりかえって思うこと

大晦日から元旦にかけての記録的な大雪に始まり、そして3月の東日本大震災と、自然の脅威を見せつけられた一年でした。津波によって一瞬で失われてしまった街並み、電気・水道・電話の無い生活を通し、「災害に対する防災の心」はもちろん、「自然に対する我々人間のあるべき姿・姿勢」について考えさせられました。

私共が暮らす岩手県岩泉町は、海と山を有する本州一面積の広い町です。自然に対する畏敬の念を常に念頭に置きつつ、その上で自然の恵みと共に生きる。そういったことを改めて感じました。

2)これからのこと

岩泉町で津波被害の大きかった小本地区では、仮設住宅・仮設商店街ができ、また震災復興計画

も立てられ、復興に向けた取り組みが進んでいます。

東京電力の原発事故

に関する放射能汚染の

風評被害はまだ収束し

ていませんが、三陸の

復興が少しでも早く進むよう皆で協力して頑張っていきたいと思います。



岩泉の雑穀のおばあちゃんたち大丈夫だったかな

3)組合員へのメッセージ

組合員の皆様から暖かいご支援を頂きましたこと、改めてお礼申しあげます。

これからも安心・安全な岩泉の自然の恵みを皆様にお届けできるよう役職員一同頑張っ参りますので、今後とも(株)岩泉産業開発を宜しくお願い致します。

(株)岩泉産業開発 代表取締役社長 佐藤 信祐

「家族の健康調査・生活記録」の補足
「医療被曝」もあわせて記録しておきましょう。

先週の「2011被曝年の家族の健康・生活記録」で医療被曝の記録を落としていました。年間累積被曝線量を見積もる際には、「医療被曝」も記録しておいて下さい。3月にニュースでお知らせしました通り、「CTやX線検査の医療被曝も加味して、被曝線量を可能な限り低くする」が必要です。

なお、政府が宣伝しているCTの被曝線量「6.9mSv」は低い値(最新鋭のCT)ですので注意が必要です。CTは病院にある機種や撮影条件で大きな違いがありますので、病院で被曝量の確認が必要です。「胸部CT」1回撮影で10mSv、一般的には造影CTで2回撮影ですので「20mSv」と考えて下さい。腹部や骨盤のCTではその倍、40～60mSvです(驚くべき被曝線量ですので、安易にCT検査は受けないことです)。胸部X線撮影(正面)で0.4mSv、胃腸のバリウム検査で標準15～20mSv。健康診断の胸部X線で0.05mSvで計算して下さい。

また、今年飛行機で海外に行かれた方は、日本ーニューヨーク間で0.2mSv標準で加算して下さい。

「共に2011年をふりかえる」生産者から(3)

【茨城県石岡市】鈴木牧場

1)ふりかえて思うこと

まさかの放射能汚染、一ヶ月にわたる原乳廃棄、悔しさが忘れられない年になりました。

健康な牛乳をつくろうと、飼料の自給・自家生産をめざし、「土づくり・草づくり」に励んできたことが直撃されました。



大切に育てた牧草(イタリアンライグラス)が汚染された。刈り取り、ロールして隔離。

栃木の酪農の仲間との連携による、どこよりも早かった牧草の放射能検査、常総生協による検査、情報のお陰で、早い段階(5月)で土壌の放射能対策ができたと思います(ゼオライト300袋投入、深さ30cmの天地返し、腐植堆肥の多めの散布)。

普段から私は「後で後悔しないために行動する」と考えているので、やるべきことはやったという実感があります。

早い情報、検査の共有がいかに大切であるかを体現できた年でもあります。



牧草刈り取り隔離後の土壌の空間線量をスクリーニングする鈴木さん夫妻(6月) 右が放射性セシウムを吸着させて作物への移行を抑えるゼオライト(粘土鉱物)。

2)これからのこと

牛乳、乳製品は、子ども達など、放射能に感受性が高く、より注意しなければならない人たちが必要とするものであり、一般食品より厳格な放射能対策が求められると思います。

これからも更なるゼオライトの散布、畑の放射能マップ等々、やらなければならない対策を実施して、引き続き牛乳の放射能ゼロをめざします。



鈴木さん夫妻と、手作りの製品

3)組合員さんへのメッセージ

私たちはできうる限りの放射能対策をし、飼料・牛乳の放射能をゼロにします。しかし、皆さんに購入して頂けなければ、私たちの経営は続けられないし、地域の循環もつながりません。

製品を購入して支援して下さいを願っています。

鈴木牧場 鈴木 昇 ともえ



発酵による堆肥(腐植)。右は牛のエサになるトウモロコシ畑。8/27、組合員による牧場見学交流会。

〒310-0009 茨城県石岡市大砂10393-1		受付No. 11-00A-1203 受付年月日 平成23年12月 2日 届出年月日 平成23年12月 2日
鈴木牧場 鈴木 昇 謹		
(財)茨城県畜産関係協会畜産安全推進センター 〒310-0852 茨城県水戸市笠原町7-8(2F)		
試験検査成績書		
検体名	牛乳	
検査内容	放射性ヨウ素(1-131)、放射性セシウム(Cs-134, Cs-137)	
採取日時	平成23年12月1日	
採取場所	鈴木牧場	
採取者	貴方	
測定日時	平成23年12月1日 15時30分	
測定方法	・平成14年3月 厚生労働省食品衛生法施行規則第10条 「緊急時に於ける食品の放射能測定マニュアル」に準じる ・平成14年 文部科学省放射線測定シリーズ24 「緊急時に於けるガンマ線スペクトロメリーのための試験器具選定」を参考 ・平成14年 文部科学省放射線測定シリーズ7 「ガンマ線計測装置の性能評価によるガンマ線スペクトロメリー」に準じる	
測定項目	検査結果 (Bq/kg)	検出限界 (Bq/kg)
放射性ヨウ素	I-131 不検出 (2 Bq/kg 未満)	300
放射性セシウム	Cs-134 不検出 (2 Bq/kg 未満)	200
	Cs-137 不検出 (2 Bq/kg 未満)	
備考	※ 検定規程は、厚生労働省食品衛生法施行規則第10条 平成23年3月17日 食安発017第3号「放射能汚染された食品の取り扱いについて」による。	
試験検査責任者	笠野 泰一	

【事務局より】

鈴木さんの原乳の放射能定期検査の結果は4月以降ずっと「不検出」です。(検出限界2Bq/kg。上記は直近12/1の検査結果)安心してご利用下さい。
しかし、現在ヨーグルトの利用も前年比2割減、モツアレーチースの利用も半減してしまっています。
生産者の努力で安全を確保しています。ぜひ組合員の利用で生産を支えて下さい。

【茨城県日立太田市】 (有)水府納豆

〇ふりかえて思うこと、心に残ったこと



平成23年3月11日の東日本大震災により、住宅や家財などに被害が生じ、大変な思いをしました。また、それに追い打ちをかけるように福島原子力発電所の事故により私

たちの生活が著しく損なわれました。

弊社のお土産用の「ワラづと納豆」も、観光地へお客様が見えず、売上はほとんどありません。

これからは、この様なことのないよう脱原発へ。

〇これからのこと

乳幼児や育ち盛りの子ども達を、この放射能汚染から身を守るというのはなかなかむずかしいことと思います。

その為に、土壌汚染除去、手を洗う、マスクをする、その他にも色々あると思いますが、食生活を

気をつければ、ということで、発酵食品である納豆を！

〇組合員へのメッセージ

納豆を食卓へ。納豆の中には骨粗鬆症にはビタミンK、決戦予防にはナットウキナーゼ、整腸抗菌などには納豆菌が効くと言われております。

この大豆の栄養分と成分が発酵によるすばらしい働きをするからだと言われております。子ども達の体力作りに、発酵食品をぜひ！

(有)水府納豆 安島孝雄



安島社長(2年前の総代会にて)今は厳しい表情だ。

【福島県郡山市】 酪王乳業株式会社

1)ふり返って思うこと、心に残ったこと

3.11の大震災の際には、早々にお見舞いご支援を頂き誠にありがとうございました。

生協の皆さまには本当に困った時にご支援を頂くので、共存共栄の取り組みにあらためて敬服しております。

さて、福島県の酪農家は原発事故の影響でmいまだ60戸近くが避難を強いられている状態です。また、乳業も風評被害が続いており、払拭活動に努めております。

今度の事故は時が解決はいたしません。引き続き、復興に向けて、一步一步前を向いて進んでまいります。これも皆様のお力添えの賜物と感謝申し上げます。

2)これからのこと

福島では、子育て世代の人口流出、地産地消の消費低迷があります。また県外に向けても「産直の崩壊」となり、長年培って来たものが危機的状態にあります。

今度のことは、大きな教訓としなければなりません。放射性物質の除染、土壌改良、情報の迅速かつ正確性は復興に向けて最低条件です。あらたな安全・安心に向けて努力いたします。

3)組合員へのメッセージ

多大なご心配の中、ご支援を頂きありがとうございます。今後の復興プロセスが、日本の農畜産業の将来を占うと言っても過言ではないと思います。

復旧・復興はこれから、といった矢先のTPP問題。ぜひとも皆様にもご理解・ご支援を引き続きお願いいたします。私共も、安全・安心を原点に食づくりを通じて、皆さまに微力ながらお役立をしていく所存です。

酪王牛乳(株) 代表取締役社長 但野 忠義
(福島県酪農業協同組合 代表理事組合長)



総代会の復興応援交流にて営業の遠藤さん



酪王乳業本社郡山工場